国立大学法人旭川医科大学 大学病院改革プラン

2024（令和6）年度～
2029（令和11）年度

国立大学法人 旭川医科大学

〇北海道（主として道北・道東）の広範な地域で、高度な医療を提供し地域医療を支える最後の砦としての役割・機能を担う。

〇高齢化・過疎化が進む広大な北海道の医療を支える医療人を育成する教育病院としての役割・機能を安定的に担う。

診療改革

■北海道医療計画に基づく医療従事者の確保と資質向上に寄与するため、「内科合同会議」を設置。地域中核病院が把握する医療ニーズの収集・課題抽出や改善策立案、医師派遣場所等を検討。また、本院から多くの職員が参画している北海道設置の各種協議会等で上記会議の成果提供や具体的施策を提案。

■ICTによる業務効率化を図りつつ紹介・逆紹介を推進し、病院間医療連携を発展させて地域における機能分担の推進を先導していく。

■道北・道東の地域中核病院をハブとして、各医療圏域の連携医療機関と繋がり、各医療圏の医療ニーズに合わせた支援体制を確立していく。併せて、「マルチタスク型地域医療医」を育成。

■多職種連携のタスクシフト/シェア、医療DXの活用等で段階的に長時間労働を削減し、医師の働き方改革を達成する。

教育・研究改革

■OSCEの公的化に伴う参加型臨床実習充実を目的とし、関連教育病院運営協議会において実習内容等を協議するなど、協力体制を深化。また、学生評価法の標準化や登録症例の分類分析による実習可能範囲の整理を進め、臨床協力実施施設との実習教育の分担を図る。

■看護職のキャリア開発の視点を踏まえ、特定行為研修について道北・道東地区ニーズ調査を実施し、研修プログラムの拡大検討を予定。

■本学の診療・教育・研究力を高め地域医療への貢献を目的とし、「地域医療創成プロジェクト」を開始し、自治体・企業等による寄附講座設置を推進。

■AIリテラシーを育む教育を一般教育から基礎医学教育に取り入れるとともに、臨床場面において実習学生及び研修医教育にICTやAIを取り入れる研究を進めて、教育や診療の効率化と質向上を図る。

運営改革

◎医師の働き方改革を達成しつつ旭川医科大学病院としての役割・機能を堅持し、医療や教育・研究の質を維持する。

■立案から参画している北海道医療計画等に基づき、旭川市内の基幹病院の連携等を先導するとともに、北海道全体の医療提供体制保全について助言・支援を実施。

■病院長のリーダーシップのもと「病院改革会議」を立上げ、有識者等の招へいなど学内外の知見を広く取り入れ、改革プラン達成に向けた方策等を確認・検討していく。

■職員に対し組織の中での自分の価値・役割を考える機会を職員一人一人に提供するコーチングを実施し、職場への定着を図っていく。また、医師・看護師の可能な就労形態での病院復帰や特に看護職のキャリア開発を引き続き支援する。また、病理及び法医学等の本院の役割・機能に必須の人材について、計画的に採用を行っていく。

財務・経営改革

■各診療科単位の責任病床数の定期的な見直しによる病床稼働率の向上、中央手術室の高稼働維持とともにDay surgery室や血管造影室の活用推進、特別療養環境室料の見直し、健診・検診（特定健診・がん検診）等の実施推進、自由診療の実施等による収入増の取組実施。

■計画的な施設整備及び設備・機器等更新、費用対効果を見据えた業務効率化・省エネルギー設備等の導入、品目選定に際する工夫及び共同調達等で医薬品費・診療材料費の低減を図る。

■人員の採用について、財務状況・採算性のみならず地域の医療ニーズの変化等も考慮し、採用を検討する。

■財務状況等に応じ課題解決策の見直し等を行い、改革プランの実施を通じて収支及び損益の改善に努めていく。